

1 廃棄物処理の状況

(1) し尿処理の現況（平成22年度実績）

ア 概況

(ア) 愛知県の行政区域人口・面積

面積	5,165 km ²
人口	7,484,228 人

(注1) 「面積」は、国土交通省国土地理院『平成23年全国都道府県市区町村別面積調』（平成23年10月1日現在）による参考値である。

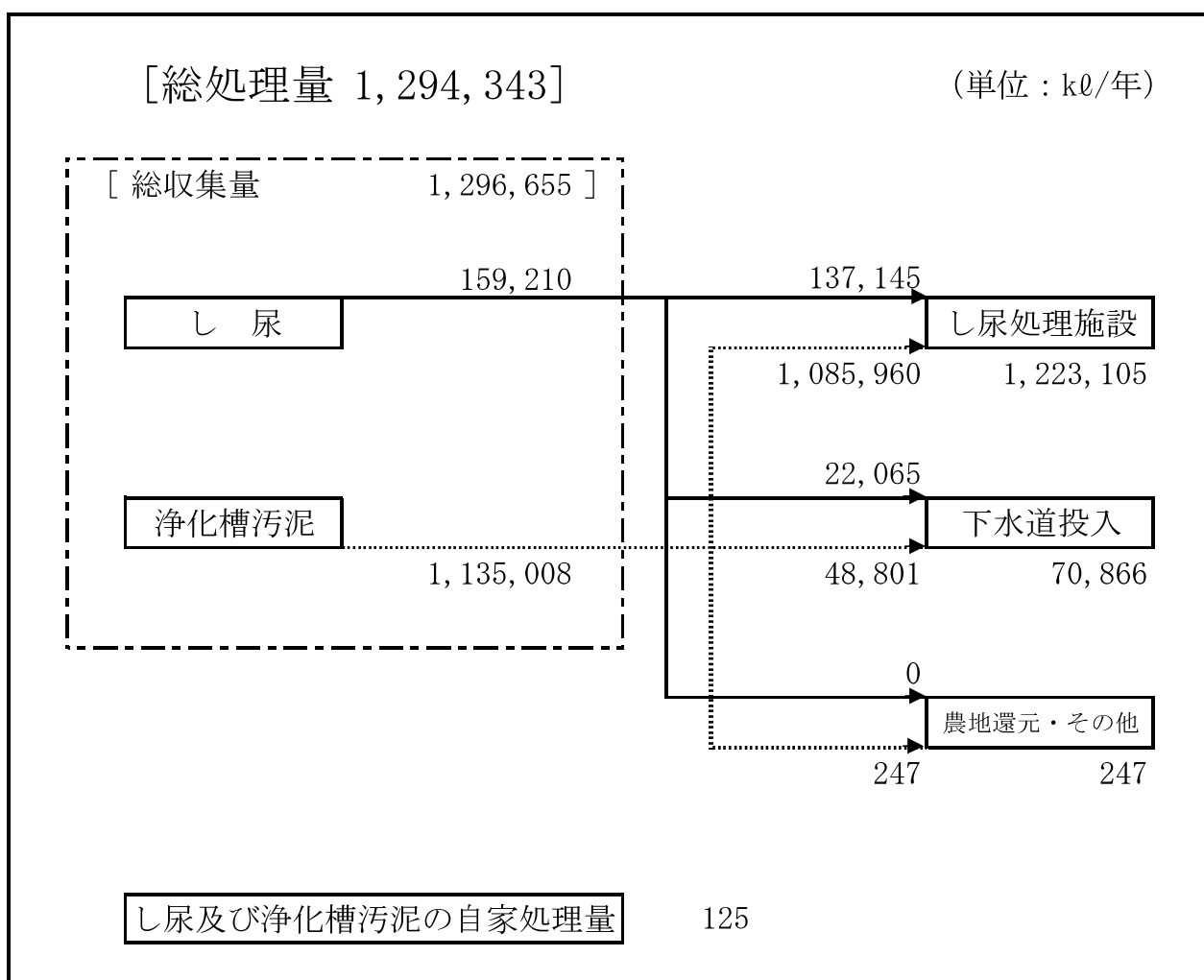
(注2) 「人口」は、住民基本台帳人口（平成21年10月1日現在）と外国人登録人口（平成21年10月1日現在）による合計値である。

(イ) し尿収集状況

計画処理区域内面積		5,165 km ²	構成比 (%)
計画処理区域内人口		7,484,228 人	100.0
人口内訳	水洗化人口	7,066,565 人	94.4
	公共下水道	4,856,879 人	64.9
	コミュニティ・プラント	11,421 人	0.2
	浄化槽		
	合併処理	944,568 人	12.6
	単独処理	1,253,953 人	16.8
	自家処理人口	200 人	0.0
計画収集人口（くみ取り等）	211,063 人	2.8	
外国人人口	206,400 人	2.8	
総収集量		1,296,655 kℓ/年	100.0
収集形態	市町村・組合によるもの	91,540 kℓ/年	7.1
	直営	18,781 kℓ/年	1.4
	委託	72,759 kℓ/年	5.6
	許可業者によるもの	1,205,115 kℓ/年	92.9

(ウ) 計画収集し尿処理内訳

区 分		処理量(kℓ/年)	構成比 (%)
総 処 理 量		1, 294, 343	100. 0
処 理	し尿処理量	159, 210	12. 3
	し尿処理施設	137, 145	10. 6
	下水道投入	22, 065	1. 7
	農地還元・その他	0	0. 0
内 訳	浄化槽汚泥の処理量	1, 135, 008	87. 7
	し尿処理施設	1, 085, 960	83. 9
	下水道投入	48, 801	3. 8
	農地還元・その他	247	0. 0
し尿及び浄化槽汚泥の自家処理量		125	0. 0



(2) ごみ処理の現況（平成22年度実績）

ア 概況

(ア) 愛知県の行政区域人口・面積

面積	5,165 k m ²
人口	7,484,228 人

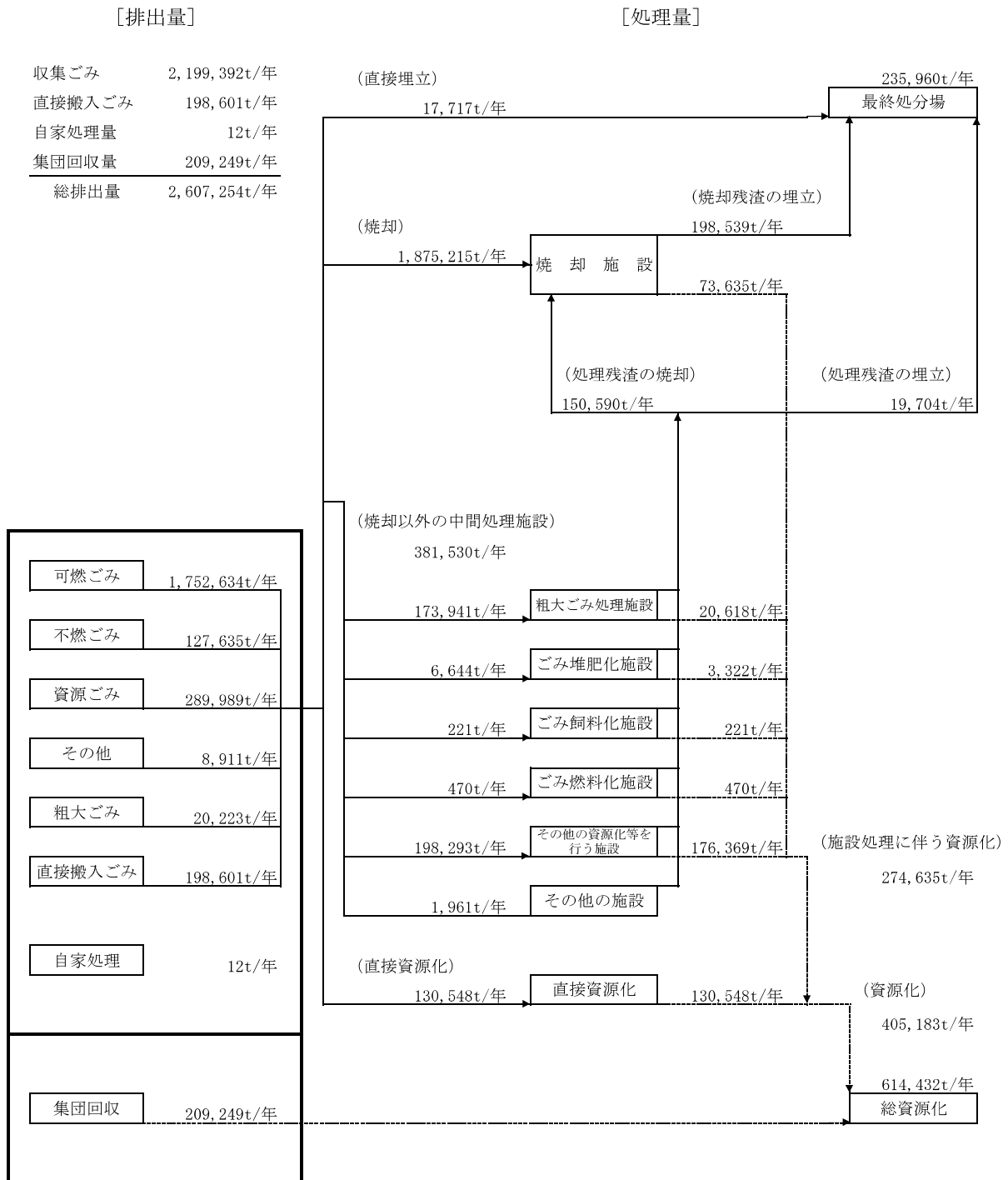
(注1) 「面積」は、国土交通省国土地理院『平成23年全国都道府県市区町村別面積調』（平成23年10月1日現在）による参考値である。

(注2) 「人口」は、住民基本台帳人口（平成22年10月1日現在）と外国人登録人口（平成22年10月1日現在）による合計値である。

(イ) ごみ排出の状況

計画 収集 人口 等	計画処理区域内面積	5,165 k m ²	構成比 (%)
	計画処理区域内人口	7,484,228 人	100.0
	計画収集人口	7,277,114 人	97.2
	自家処理人口	714 人	0.0
	外国人人口	206,400 人	2.8
排 出 形 態	市町村・組合による収集	2,199,392 t/年	84.4
	直営による収集	822,973 t/年	31.6
	委託業者による収集	875,448 t/年	33.6
	許可業者による収集	500,971 t/年	19.2
	排出者が直接搬入	198,601 t/年	7.6
	自家処理	12 t/年	0.0
	集団回収	209,249 t/年	8.0
	総計（総排出量）	2,607,254 t/年	100.0

(ウ) ごみ処理の状況



(注) 収集ごみの「その他」とは、危険ごみ等をいう。
「その他の施設」とは、最終処分を目的とした減容化施設等をいう。

(エ) ごみ処理事業における指標

1 ごみの排出量

・ ごみの総排出量	2,607千t/年	(前年度 2,669千t/年)
・ 一人一日当たりのごみ排出量	954g/人・日	(前年度 980g/人・日)
・ 処理しなければならないごみの量	2,090千t/年	(前年度 2,155千t/年)
・ 処理しなければならないごみの一人一日当たりの量	765g/人・日	(前年度 792g/人・日)

(注) 「ごみの総排出量」とは、「収集ごみ量」、「直接搬入ごみ量」、「自家処理量」、「集団回収量」の合計値をいう。
「処理しなければならないごみの量」とは、「ごみの総排出量」から「資源ごみ量」*及び「集団回収量」を除いた値をいう。
*「資源ごみ量」について、平成22年度から直接搬入された資源ごみを含めている。
「人口」の定義について、平成19年度から住民基本台帳人口に外国人登録人口を含めている。

2 ごみ処理状況

(1) ごみ減量処理率及びリサイクル率

ア ごみ減量処理率

$$\left[\begin{array}{l} \text{ごみ減量処理率 (\%)} \\ \\ \end{array} = \frac{\text{直接焼却量} + \text{直接焼却以外の中間処理量}}{\text{収集ごみ量} + \text{直接搬入ごみ量}} \times 100 \right]$$

$$= \text{直接焼却率} + \text{直接焼却以外の中間処理率}$$

・ 直接焼却率	78.2%	(前年度 77.5%)
・ 直接焼却以外の中間処理率	15.9%	(前年度 16.1%)

イ リサイクル率

$$\left[\text{リサイクル率 (\%)} = \frac{\text{資源化量} + \text{集団回収量}}{\text{収集ごみ量} + \text{直接搬入ごみ量} + \text{集団回収量}} \times 100 \right]$$

(注) 「資源化量」とは、「施設処理に伴う資源化量」と「直接資源化量」の合計値をいう。
「資源化量」と「集団回収量」の合計値を、「総資源化量」という。
数値は四捨五入のため合計値が一致しないことがある。

(2) 一般廃棄物最終処分場の状況

ア 最終処分量

236千t/年 (前年度 259千t/年)

イ 直接埋立率

0.7% (前年度 0.8%)

$$\left[\text{直接埋立率 (\%)} = \frac{\text{直接埋立量}}{\text{収集ごみ量} + \text{直接搬入ごみ量}} \times 100 \right]$$

ウ 一般廃棄物最終処分場の残余容量

2,708千m3 (前年度 2,766千m3)

エ 一般廃棄物最終処分場の残余年数

19.5年 (前年度 18.6年)

$$\left[\text{残余年数 (年)} = \frac{\text{残余容量 (m3)}}{\text{埋立容量 (覆土を含む) (m3/年度)}} \right]$$

3 ごみ処理経費の状況

(1) ごみ処理経費

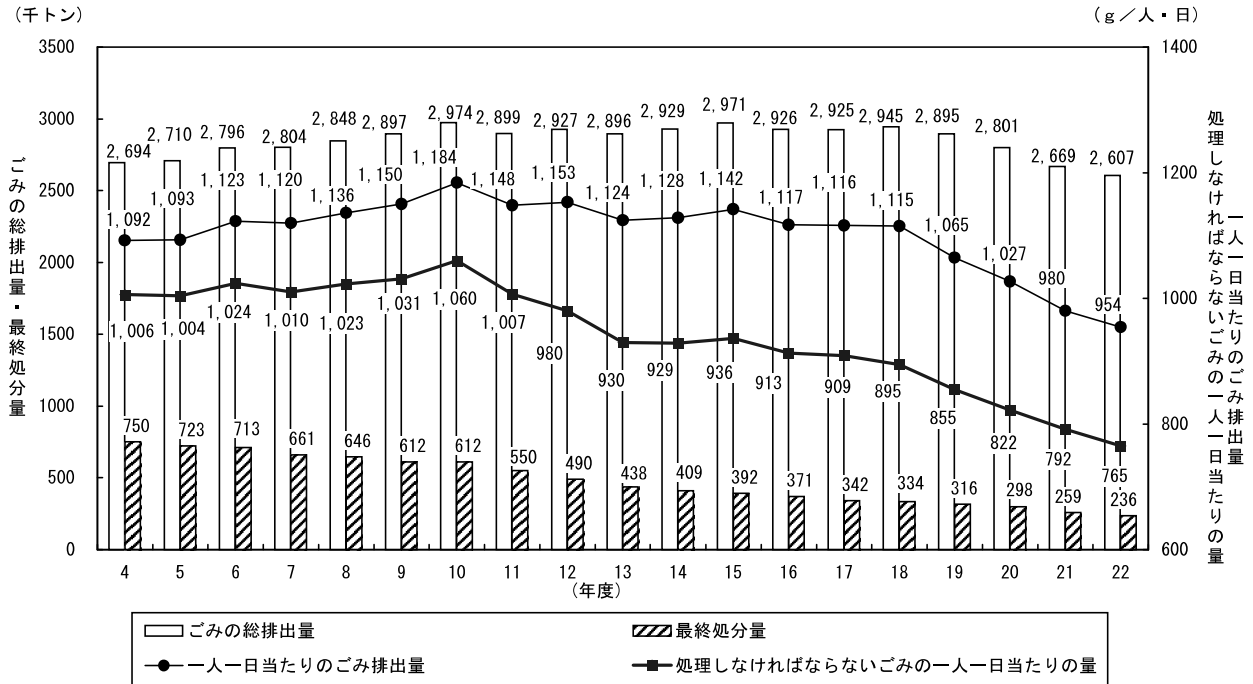
ア 経費 (合計)	1,064億円	(前年度 1,062億円)
イ 建設・改良費	155億円	(前年度 149億円)
ウ 処理及び維持管理費	841億円	(前年度 856億円)
エ その他の経費	68億円	(前年度 56億円)

(2) 一人当たりのごみ処理経費

ア 一人当たりの経費 (合計)	14,213円	(前年度 14,232円)
イ 一人当たりの建設・改良費	2,065円	(前年度 2,000円)
ウ 一人当たりの処理及び維持管理費	11,237円	(前年度 11,483円)
エ 一人当たりのその他の経費	911円	(前年度 750円)

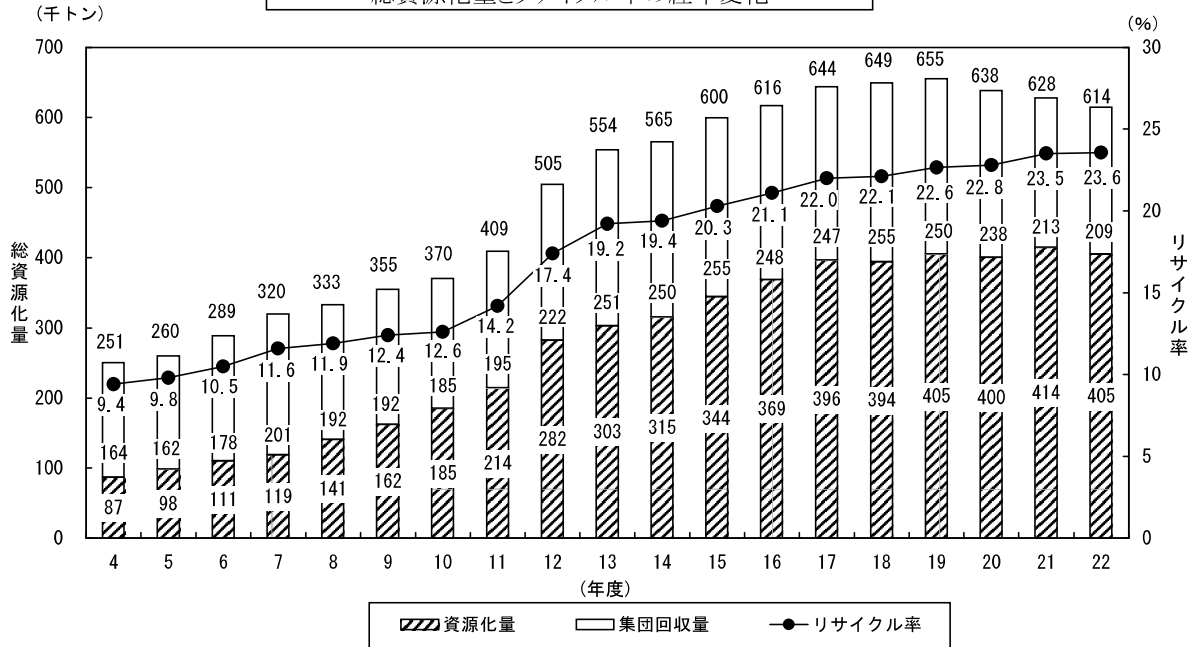
(注) 「ごみ処理経費」については、起債償還額にかかるものは除く。
「その他の経費」とは、第三セクターへの拠出金等、他の項目に属さない経費をいう。

ごみの総排出量と最終処分量の経年変化



(注1) 「ごみの総排出量」とは、「収集ごみ量」、「直接搬入ごみ量」、「自家処理量」、「集団回収量」の合計値をいう。
 (注2) 「人口」の定義について、平成19年度から住民基本台帳人口に外国人登録人口を含めている。

総資源化量とリサイクル率の経年変化



(注) 「資源化量」とは、「施設処理に伴う資源化量」と「直接資源化量」の合計値をいう。
 「総資源化量」とは、「資源化量」と「集団回収量」の合計値をいう。

$$\text{リサイクル率} = \left(\frac{\text{総資源化量}}{\text{収集ごみ量} + \text{直接搬入ごみ量} + \text{集団回収量}} \right) \times 100$$
 数値は四捨五入のため合計値が一致しないことがある。